

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立諸富中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の向上については、授業スタイルの共通化やICT機器の利活用等を中心に取り組んだ。生徒の学習へ向かう態度に成果が表れつつある。今年度の課題を踏まえながら来年度も取組を継続したい。</li> <li>・学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進する。</li> <li>・教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員との密な連携を図ったことで、不登校生徒数が昨年度より減少するなどの成果を得ることができた。引き続き来年度も重点目標として取り組みたい。</li> <li>・不登校生徒への対応では、数値的に若干の改善が見られた。外部機関とも連携して卒業後の進路実現にも力を注ぐことができた。次年度も引き続き不登校対策に力を入れて取り組みたい。</li> <li>・「地域とのふれ合いが希薄である」という意見が、生徒・保護者から少なからず出ている。今後、学校教育は勿論の事、公民館活動も保護者を含めた中高生との交流事業や中学生を取り込めるような活動を推進しなければならない。尚、土曜日・日曜日・祝祭日を使った中学生対象の講座、屋外活動（マルシェ、軽トラク市、販売の加勢、ウォーキング）は現在も協力いただいている。</li> </ul>
---------------	---

2 学校教育目標	<p>夢をもち たくましく 挑戦する 生徒の育成</p> <p>創り、つなぐ ～ 夢 絆 伝統 ～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①地域とともにある学校づくり（コミュニティースクールによる学校・家庭・地域との連携・協働）</p> <p>②生徒の主体的・対話的で深い学びの実現（確かな学力を身に付けさせるための授業改善）</p> <p>③生徒指導、特別支援教育の充実（いじめや不登校の未然防止のための組織体制の整備）</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標（数値目標）	具体的取組	達成度（評価）	実施結果
				●学力の向上	○生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりと、望ましい学習習慣を育む学習基盤づくり
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業を通じて、心豊かに成長できている」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・生徒が人権や命の大切さを認識するために、全職員による道徳授業や人権集会などを実施する。 ・学習の成果を共有する場として、文化発表会にて学年ごとの「生き方」体験学習を行う。	A	学年によってバラつきはあるものの、「道徳の授業を通じて、自分の考えが深まったり新しい発見があったりといった成長ができていく」について、87%以上の生徒が肯定的な回答をしている。 ・全教員をあげてのローテーション道徳に加え、校内の様々な教員を講師とした、月に一度の人権集会にも取り組むことができた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「『いじめ防止基本方針』に基づいて、対策に取り組んでいる」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・生活アンケートや定期教育相談を活用し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努める。	A	「『いじめ防止基本方針』に基づいて、対策に取り組んでいる」について肯定的な回答をした教師の割合95%であった。 ・毎月1回、生活アンケートを実施し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努めた。また、定期教育相談を年間2回実施した。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア教育の一環として「職場体験」や「職業人に学ぶ」「先輩（高校生）に学ぶ」を実施し、高校で活躍する卒業生や夢をもって人生を切り拓いている社会人から学ぶ機会をつくる。	A	「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒95%だった。昨年度より肯定的な回答が10%増加した。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒71%だった。学年別の内訳は、3年生(73% 2年時より+14%)、2年生(64% 1年時より+5%)、1年生(73%)であった。目標の80%に達してはいないが、昨年より肯定的な回答をした生徒が増加した。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようにしているとの肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・家庭科、学級活動、総合的な学習の時間等を通して、望ましい食習慣の定着を図る。 ・毎日の登下校指導や、交通安全教室での講演や実技を通して、安全に対する意識を高めさせる。	B	「健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようにしている」について肯定的に答えた生徒は90%であった。ただ、保護者は77%と若干低くなっており、生徒と保護者の認識のズレが見られた。 ・生徒が加害や被害となる事故は0件であった。ただ、交通マナーへの連絡も数件あっている。道路交通法の改正により、4月から自転車に対する取り締まりが強化される。今後も、交通マナー向上のための指導と呼びかけの強化を行っていき、交通事故の発生を抑制していきたい。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。		A	「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合85%であった。また、「体育活動や部活動は、子どもの健やかな体や心を育むのに役立つ」と肯定的に回答した保護者の割合は81%であった。 ・生徒の健康に関する体育活動、部活動での健康・体づくりの成果は一定程度達成されている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・衛生・健康管理委員会を複数回開催し、業務効率化の具体的方策及び職員のタイムマネジメント意識向上の進捗状況等について話し合う。 ・校務分掌間等の連携や情報の共有を図り、業務効率化の取組を組織で実践する。	B	学校評価アンケートの質問「校務分掌等で他の教師との連携や情報の共有を図るなど、業務効率化に取り組んでいる。退勤時間の目安を意識するなど、時間外勤務時間の削減を心がけている」に対して肯定的な回答をした職員は、90%であった。 ・今後は、会議資料のペーパーレス化の徹底や時間割の改善等の取り組みを通して、生徒とふれあう時間の更なる増加を行う。
●特別支援教育の充実	○全職員で対応する体制づくりと支援を要する生徒の指導や支援の方法の共有化	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・支援を要する生徒の把握や理解について、生徒指導協議会や特別支援教育部会などを活用し、情報交換や有効な手立ての伝達を確実に進行。	A	「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」で肯定的な回答をした教師の割合は100%であった ・学校生活支援員、別室対応支援員支援、SSW、サポート相談員、SC、小学校、外部機関との連携と今後について共通理解ができた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	達成度（評価）	実施結果
				○機能する生徒指導体制の充実	○生徒指導部を中心とした提案や連絡体制による組織で動く生徒指導体制の確立
○教育相談の充実	○生徒の変化の早期発見と全職員で対応する支援体制づくり	○「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれている」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・生徒の変化を早期に発見するために、毎月行うアンケート「自分と話そう」や定期教育相談を有効に活用する。 ・GR等を活用し、学年を超えた教師間の情報共有や、SCやSSW、サポート相談員との連携を確実に進行。	A	「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれている」について、肯定的に答えた生徒の割合は94%であった。 ・「学校は生徒の話に耳を傾けていると思う」について、肯定的に答えた保護者の割合は95%であった。 ・毎週木曜日に教育相談部会を開催し、情報共有と広範な意見交換ができた。
○地域と共にある学校づくりの推進	◎コミュニティースクールによる学校・家庭・地域の連携・協働の推進	◎「地域の方々たふれあう活動を積極的にやっている」について肯定的に答えた生徒、保護者の割合80%以上	・生徒の地域行事へのボランティア参加の促進。 ・「職場体験」「職業人に学ぶ」「夢づくり講演会」等、地域・保護者と連携した教育活動の更なる充実。	B	◎「地域の方々たふれあう活動を積極的にやっている」について肯定的に答えた生徒の割合は、49%であり、保護者の割合は31%であった。 ・生徒の地域行事等へのボランティア参加は、呼びかけると積極的に手を挙げる生徒が他校より多い。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・学力の向上については、授業スタイルの共通化やICT機器の利活用等を中心に取り組んだ。少しずつではあるが生徒の学習へ向かう態度に成果が表れてきている。ただ、学力の向上には結びついていない。来年度については、教科における基礎・基本の定着を図るとともに、主体的に学びに取り組み、他の生徒との共同・協働的な活動を発達段階に応じて、計画的に行っていくたい。</p> <p>・学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進したい。</p> <p>・教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員、外部機関とも連携を図るなど「チーム学校」として対応することができている。引き続き来年度も重点目標として取り組みたい。また、次年度も引き続き不登校対策に力を入れて取り組みたい。</p> <p>・「地域とのふれ合いが希薄である」という意見が、生徒・保護者から少なからず出ている。ただ諸富校区は、土曜日・日曜日・祝祭日を使った中学生対象の講座、屋外活動や地域行事が他校区と比べて多く、ボランティアを募集すると積極的に参加したいと申し出る生徒の割合は他校よりも多い。ただ参加しない生徒も多いのも事実である。生徒への広報活動だけではなく、保護者への啓発活動も行っていきたい。</p>
----------------	---